

アウトサイダーの地域への溶け込みとインサイダーとの共生モデル ～久米島の移住者を事例に～

1155140 広瀬太智 指導教員 藤掛洋子

【要旨】

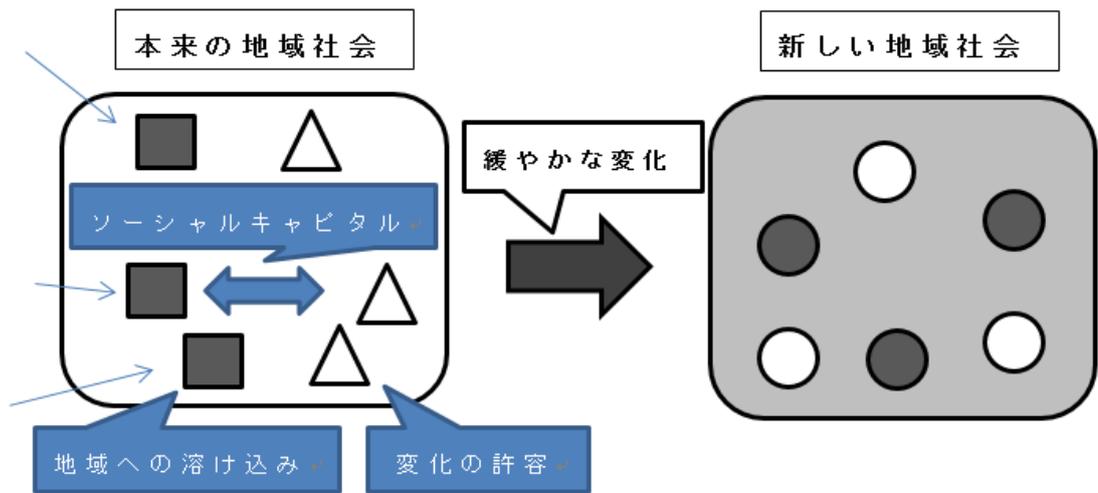
本論文では沖縄県の離島、久米島の移住者を事例にアウトサイダーの地域への溶け込みとインサイダーとの共生モデルについて研究した。内地や外国からの久米島への移住者と元々久米島に住んでいる島人（しまんちゅ）をそれぞれアウトサイダーとインサイダーの対象者とした。調査方法は、主に半構造インタビューによる聞き取り調査であり、移住者 10 名、島人 6 名に対して行った。移住者に対しては地域への溶け込みの経緯や移住当初の苦労、自らのアイデンティティに関する質問を行い、島人に対しては島人から見た移住者や移住者による変化、久米島の文化などに関する質問を行った。調査対象者たちそれぞれの語りの共通点や差異から、以下のことが明らかになった。

- ・アウトサイダーが地域に溶け込むということはソーシャルキャピタルを獲得するということであり、それは〈地域における人間関係を広げること〉と〈インサイダーの文化を理解すること〉という 2 つのプロセスを完了することであるということ。またそのための具体的方法は
 - i) “地域の人々の集まる何か”などに参加すること。
 - ii) 地域と自分を結び付けてくれるパイプ役となるパートナーを作ること。であるということ。
- ・地域に溶け込むこととインサイダーになるということは別のことであるということ。（アウトサイダーは完全にインサイダーになることはできないということ。）
- ・アウトサイダーは身近な範囲でインサイダーへ文化的な影響や変化を与え、劇的ではないがインサイダー全体にもそれは伝わるということ。

これらの明らかになったことから、アウトサイダーとインサイダーの共生のモデルについて考え、図式化した（図 1）。アウトサイダーが地域へ溶け込んでいき、これによる変化をインサイダーも許容していく。このように両者が歩み寄ることで両者はアウトサイダーとインサイダーという垣根を超えた存在、言うなれば“ノーサイダー”になっていくと考えた。それは両者のアイデンティティがなくなるという意味ではなく、互いのアイデンティティを持ちながらも互いの文化を理解し共に生活できるようになるということだ。そして、生活している人間がノーサイダーになるだけでなく、地域社会の文化もノーサイダーの文化になっていく。もちろんノーサイダーの文化はインサイダーの文化から大きくかけ離れたものではなく、あくまで大部分はインサイ

ダーの文化であり、そこにアウトサイダーの、いわばスパイス的な変化が加わったものである。この新しい地域社会への変化は、文化が大きく変わったり短期間で起きたりする劇的なものではないが、この緩やかな変化こそがアウトサイダーとインサイダーの共生にとって重要なのである。

《図1 アウトサイダーとインサイダーの共生モデル》



	本来の地域社会	新たな地域社会
構成員	アウトサイダー : ■ インサイダー : ▲	ノーサイダー : ● ○ (※色は元々アウトサイダーとインサイダーのどちらであったかを示す。)
文化	インサイダーの文化 : □	インサイダーの文化を基礎とした新たな文化 : ■